



事前研修 (5/12) 第1回事前研修

ワークショップ ～「災」「復興」「私たち」～

参加者同士の自己紹介、ファシリテーション技術、そして今回の活動で何を学ぶのか、ワークショップを行いました。題は「災」「復興」「私たち」と設定しました。まずはグループ内で「災い」とは何かのすり合わせからはじめて、そこから「復興」と「私たち」の関連を1つの模造紙に作成しました。非常にハイレベルなワークショップを生徒たちはこなしました。



Aチーム活動の様子



Bチーム活動の様子



Bチーム発表の様子

生徒たちの振り返り・感想

1年佐々木

グループで災害という大きなくくりで話し合いをしました。初対面だったのでスムーズに話せなかったが、意見交流は上手く行ったと思います。災害と一口に言っても個人個人でイメージする事が違うことがわかり、新鮮な感覚でした。グループでは津波について、私達はどうそれと関わっていくのかや復興といった観点でより詳しく考えることになり、被害などを調べてみて、家屋倒壊などの物理的な被害だけでなく、精神面での被害などもあることを知り、災害被害の根深さを改めて強く感じました。

また復興については自分にできることは募金や災害の記憶の継承だと思うので、このプロジェクトで体験したことを身近な人に伝えることが大事だと思います。

2年比嘉

初めて会った人とグループ活動をして自分ができたことは自分から話し始めてみんなで話しやすいようにできたと思う。出来なかったことは時間内にみんなの意見をまとめて発表するまでスムーズに進まなかったこと。まだみんな打ち解けられてなかったけど廊下とかですれ違ったら挨拶とかしたらいいかなと思った。

1年辻本

「災」という1文字には津波や地震などの目に見えるものだけでなく、震災のトラウマのような目に見えないものもあることを同じ班の人と交流して知ることが出来た。現地の人たちを支援するのには、ボランティアや寄付だけでなく、その土地の特産物を買う事も必要だと学べた。